吹上小

主体的に課題に向かい、共に学び合う子どもの育成

～児童の考えを広げ深めるための集団解決の場の工夫を通して～

（３年計画の２年次）

校長　　川村　洋

１　研究主題について

本校では、教育目標として「気づき、考え、行動する子」努力目標として「進んで学ぶ子」を掲げ自ら課題を見つけ、解決に向けて主体的に学習に取り組む子どもを育てることを目指している。学習指導要領の目標及び内容を踏まえ、授業の展開において児童の考えを広げたり、深めたりするために集団解決の場を工夫することで主体的に課題に向かい、学び合う子どもを育てることができると考え、研究主題を設定した。

昨年度は、３年計画の１年次として「主体的に学び、共に高め合う子どもの育成～児童の意欲を引き出す『学習課題』の設定と集団解決の場の工夫を通して～」という研究主題のもと児童の考えを広げ深める授業づくりを目指し授業改善を行った結果、以下のような成果が得られた。

〇単元や１単位時間の導入時に教材のしかけや発問の工夫をし、教師が意図するねらいと子どもの「解決したい」という思いを一致させたタイミングで学習課題を設定することが児童の解決意欲の高まりにつながった。

〇学習過程の中に、立場を表明する場を設定し、児童の考えをネームプレートやクロムブックの付箋機能を使って提示させることで、児童の考えを整理することができ、課題解決のための思考の焦点化につなげることができた。

〇集団解決の場において教師が話し合う観点を示したことで児童から根拠をもった意見を引き出すことにつながった。

今年度は、解決意欲を高める学習課題設定の日常化を図りつつ、さらに児童の意見や立場を明確にし、児童の意見をつなげたり整理したりする話合いを通して児童の考えを広げ深める授業実践を取り入れていきたい。考えをよりよいものに練り上げ、考えを広げ深める集団解決の場の工夫について研究を進めることで、子どもが主体的に学び合い、「わかった！できた！身についた！楽しい！」と実感できる授業の実現を目指していくことができると考える。

２　研究のねらい

主体的に課題に向かい、共に学び合う子どもを育てるために、児童の考えを広げ深めるための集団解決の場の工夫を、授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

立場を表明する場を設けたり、観点を明確化・焦点化した上で話し合わせたりすることにより、主体的に学び合う児童を育成することができる。

４　研究内容

⑴立場を複数回表明させるための場の工夫

⑵集団解決の場で話合いの観点を明確化・焦点化するための工夫

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究等

月	日	授　業　研　究	全体会等
５	３１	授業公開（特別支援学級） いちょう学級　授業者 元木　欣也 壬生　理輝　　寺田　晴美	個々の課題に応じた段階的な個別指導と、立場の表明からの問題解決的な学習、様々な活動の中で失敗を通して協力する姿勢を育てる学習に取り組むことができた。
７	５	第１回授業研究（３学年） 理科　「こん虫を調べよう」 ３年４組　　授業者　　松山　郁	チョウやバッタの体のつくりについて振り返ることで、他の虫についても昆虫かどうか判別するためにどこに着目して考えればよいのか、観点を焦点化した話合いができた。立場を再表明することによって、児童の考えの変容が明確になり、昆虫の体のつくりについて理解を深めることができた。
９	２５	第２回授業研究（集中授業） 国語　「うみのかくれんぼ」 １年３組　　授業者　村井　優子 助言者　八戸市教育委員会　教育指導課 主任指導主事　中村　美穂　氏	「名前と場所」「体の特徴」「隠れ方」の３文で抜けている文章を提示し、選択肢を与えることによって意欲的にどの文が入るかを考えることができた。また、同じ立場同士で話し合わせたことによって、着目させたい言葉や３つの文の順序に気付かせる手がかりになった。
１２	６	第３回授業研究（５学年） 社会　「これからの社会に向けて」 ５年２組　　授業者　　広田　陽介 助言者　八戸市教育委員会　教育指導課 主任指導主事　大下　洋一　氏	世界の EV 普及率のグラフを提示した後、日本の普及率を予想させたことは、話合いの観点を明確化し、学習意欲の高まりにつながった。話合い後、「値段」「スタンド数」「環境」の３つの観点で EV とガソリン車のどちらを買うのかを再表明する場を設けたことで、考えを深めることができた。

（２）一般研修

月	日	内　容
４	１９	集団解決の場の工夫～教師のファシリテーションとは～ 講師　本校教頭　福田　秀貴
６	７	吹上小学校避難所運営研修　　指導　八戸市災害対策課　職員
１０	２５	特別支援教育についての研修 講師　こども支援センター　主任指導主事　　小堀　祐二氏

６　研究の成果

（１）少人数や全体での話合い後に、再表明する場を設定することによって、児童の考えの変容が顕在化し、さらに根拠のある考えに迫ったり自分の考えを深めたりすることができた。

（２）既習事項や児童のつぶやきなどから話合いの観点を明確化・焦点化することによって、児童の思考の流れに沿って話合いを進めることができた。

７　研究の課題

（１）児童が主体的に学び合うための立場の表明の工夫についてさらに研究を深める必要がある。

（２）集団解決の中で児童の考えを広げ深めるための教師の働きかけを工夫する必要がある。

（記入者　　上平　陽子）